

紀尾井江戸邦楽の風景(十二)

神田

演奏とともに絵や詞章など視覚的に邦楽を体感するシリーズ。
12回目は、「神田」が舞台です。

「神田」という地名

元々「神田」は神田しんでん（神社へ供進する稻をつくる田）を由来として、全国に存在しますが、特に東京都千代田区の神田が有名です。神田には神田〇〇町という名前が多く見られます。戦後、麹町区と神田区が合併し、千代田区が誕生して、神田という名称が入っていない旧神田区内の町名に、すべて「神田」

を冠称する変更が行われました。後に町名に「神田」という冠称を使わないという千代田区の方針から、内神田、外神田、三崎町、鍛冶町等が生まれましたが、なおも神田に「神田」の冠称がついている町名が多いのは、神田という地名に対する愛着から、町名変更に対する住民の意識が強かったためでしょう。広沢虎造の浪曲「清水次郎長伝」に、「江戸っ子だつてねえ」「神田の生まれよ」という

有名なセリフがあります。江戸っ子の中でも、お城（江戸城）が近く、神田明神の天下祭（神田祭）がある神田っ子の誇り・自慢が感じられます。

「神田祭」長唄と清元

今回演奏される二曲は、ともに「神田祭」ですが、清元「神田祭」は天保10年（1839）江戸河原崎座で初演されました。祭りのスタァだった男の手古舞てこまい（鳶の者の役）と芸者に焦点を当てています。

長唄「神田祭」は明治44年（1911）に神田祭の情景を残すために作られました。冒頭では、前夜（宵宮）の様子を描き、山車だしや附祭つけまつりなどお祭りが盛り上がりつついく様子が唄われています。



「花競神田祭禮」神田明神所蔵

※附祭つけまつりとは、曳き物ひきものと呼ばれた巨大なはりぼての人形やさまざまな流行の衣装を身にまとい、流行の音楽を奏でながら行列に参加した踊り子等の出し物。

紀尾井 江戸 邦楽の風景

(十二) 神田

6.20 ± 14:00

紀尾井ホール開館20周年
友の会会員15%割引!